

# 医療・医学における番号の活用場面

2014年6月24日

東京大学大学院医学系研究科医療経営政策学講座

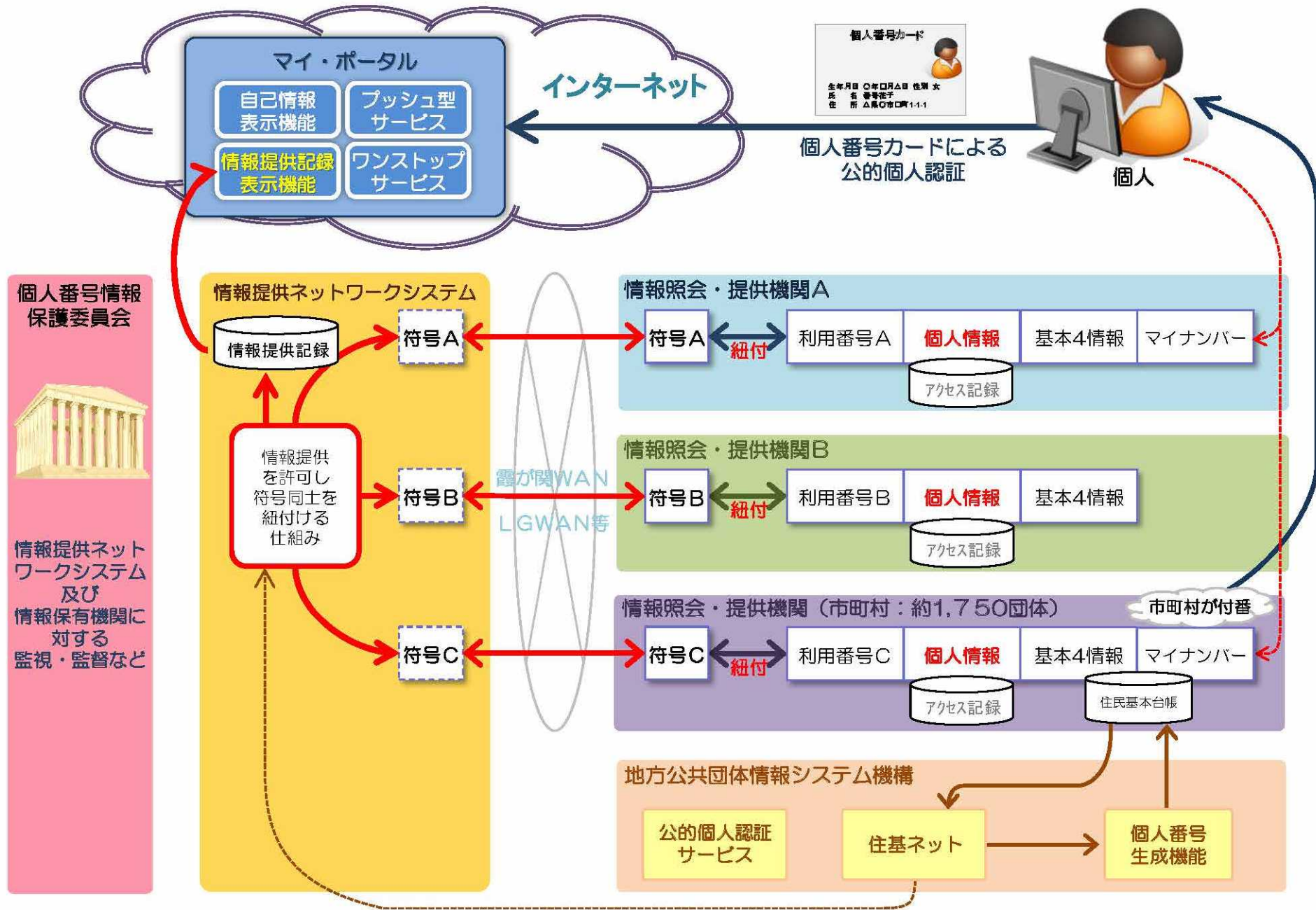
一般財団法人医療情報システム開発センター

山本隆一

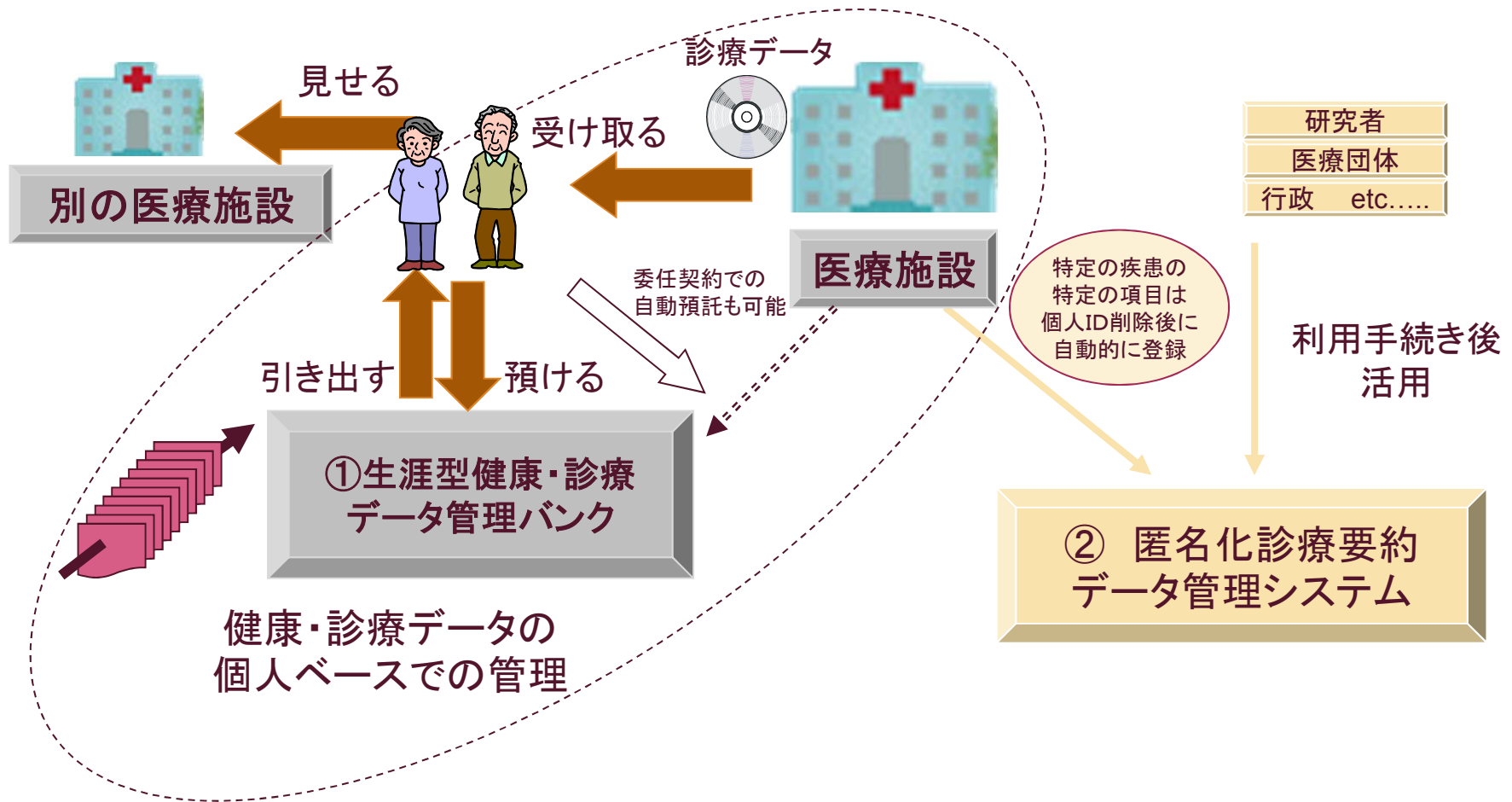
# 前提

- ＞ 安全で安心して使える番号(符号)があれば便利であることは当たり前
- ＞ プライバシー保護・安全管理は具体的なユースケースで考えなければならない。
- ＞ 符号： 識別子ではあるが、通常は見るできないもの
- ＞ 番号： 識別子であり、本人に常識的な能力があれば認識できるもの

リスク : 番号 > 符号

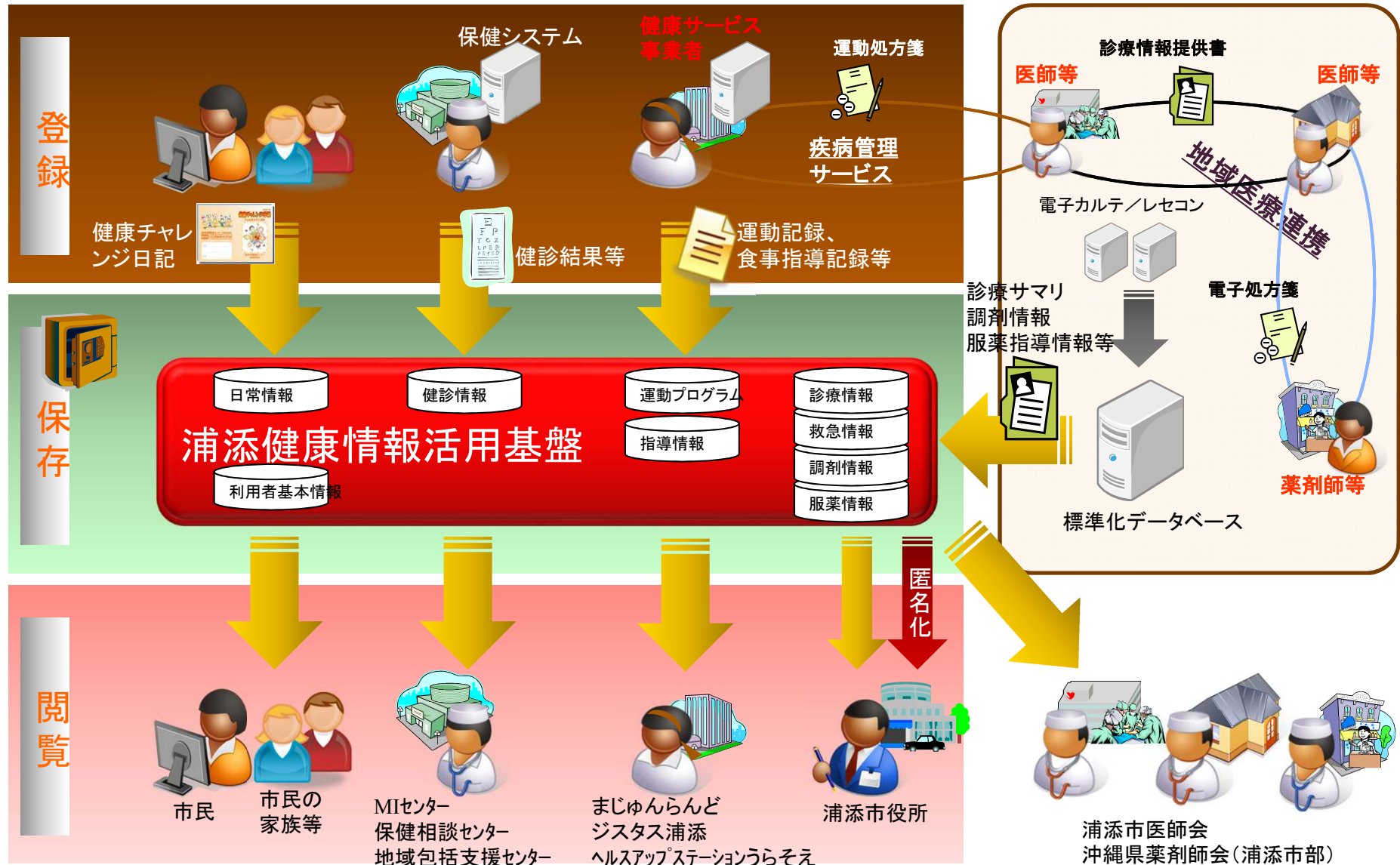


# Electronic Health Records



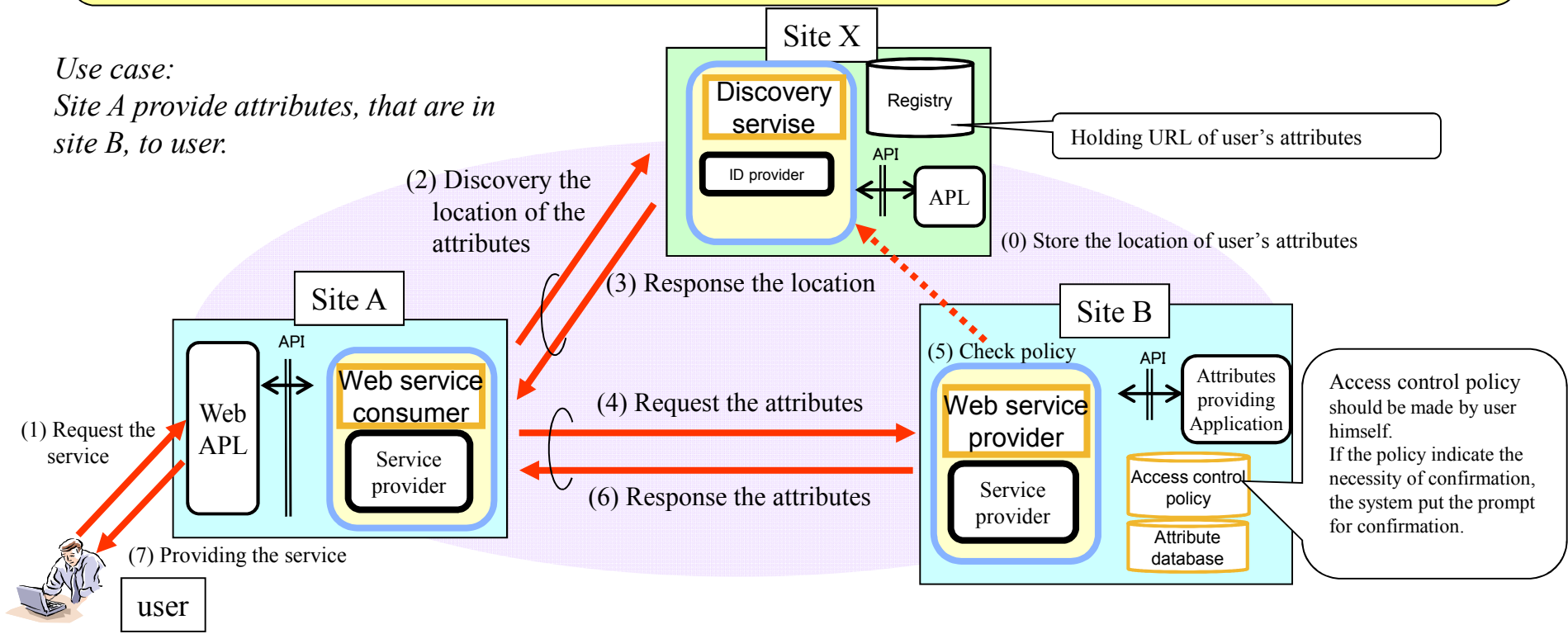
診療のための生涯型健康・診療データ管理バンク①および施策  
 活用のための匿名化診療要約データ管理システム②(2006 Oct.)

# 浦添健康情報活用基盤の概要



# Infrastructure of EHR in Okinawa Island (SAML2.0 and ID-WSF2.0)

Discovery service of attributes, Request and response of the attributes under user's consent, Policy-based access control, Group management.



### SAML 2.0

- Unification of user ID of different sites
- Enabling single sign on

**ID provider** Providing the assertion based on user authentication

**Service provider** Check the assertion and authenticate the user

### ID-WSF2.0

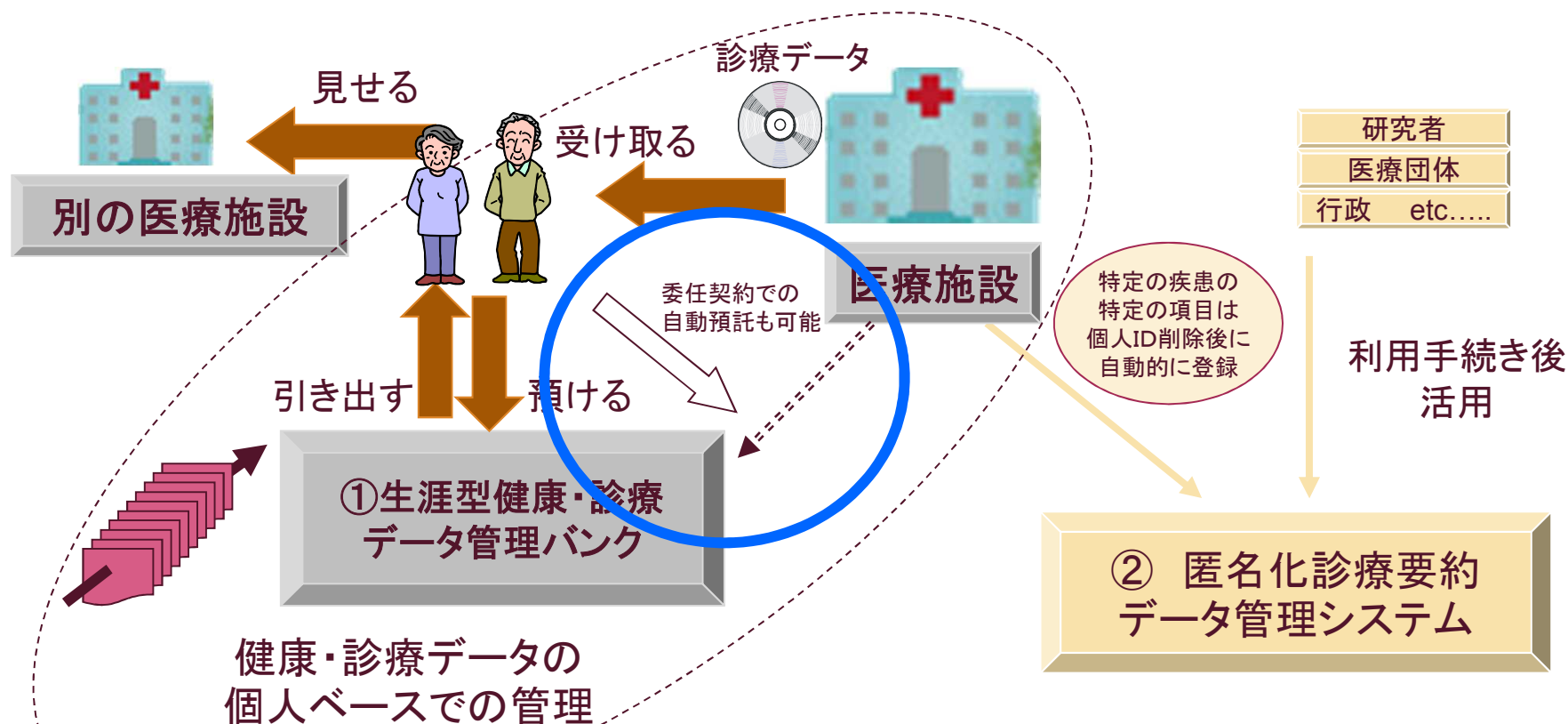
- allow the move of attributes among different sites

**Discovery service** Provide the location of each attribute

**Web service provider** Provide the attributes

**Web service consumer** Get the attributes from other site and provide them to user

# 浦添市三省連携事業で出来なかった事



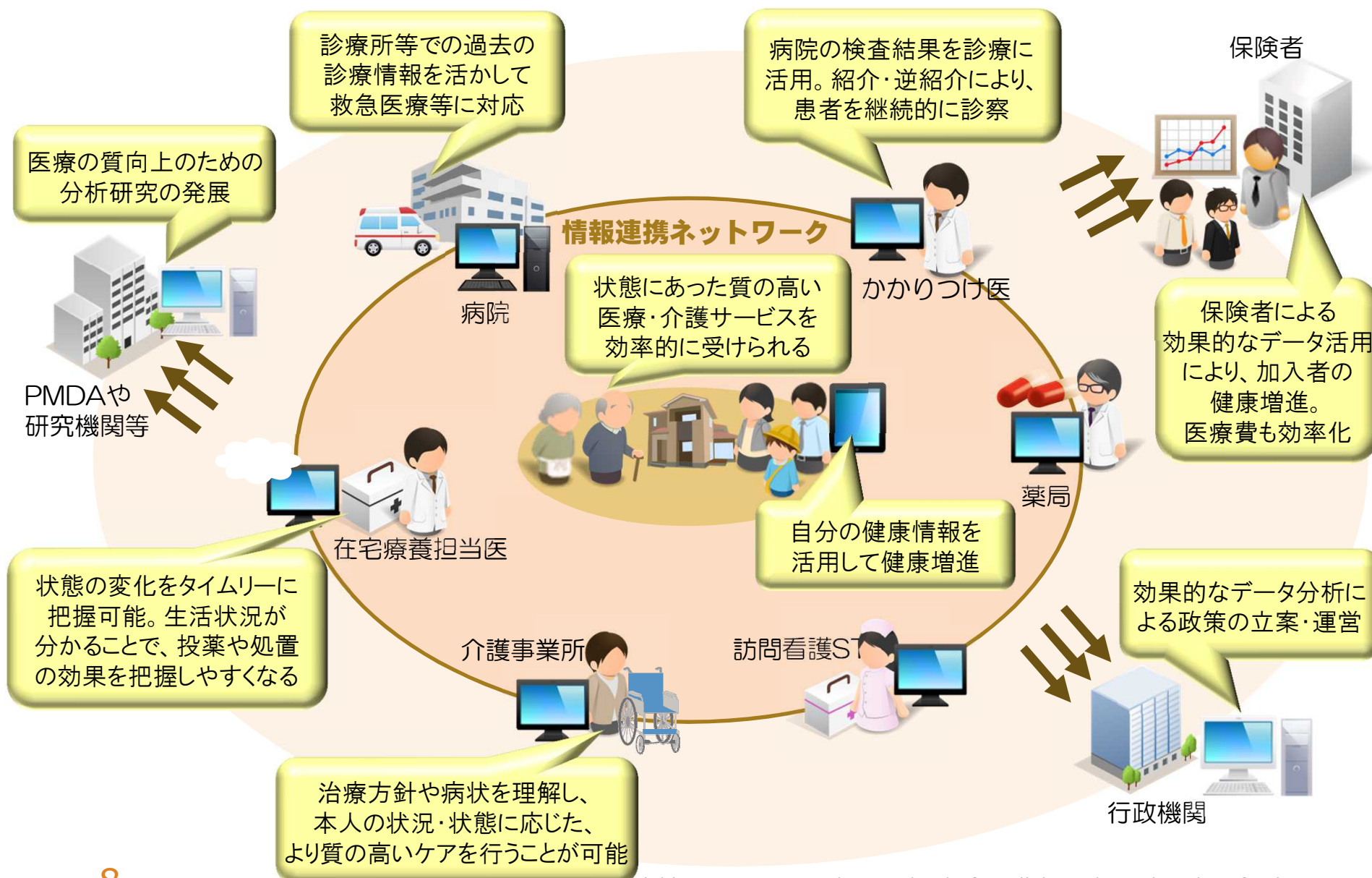
事前入力・自動入力

Pre-population・Auto-population

保健・医療・介護分野で利用できるIDが必要

# 医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

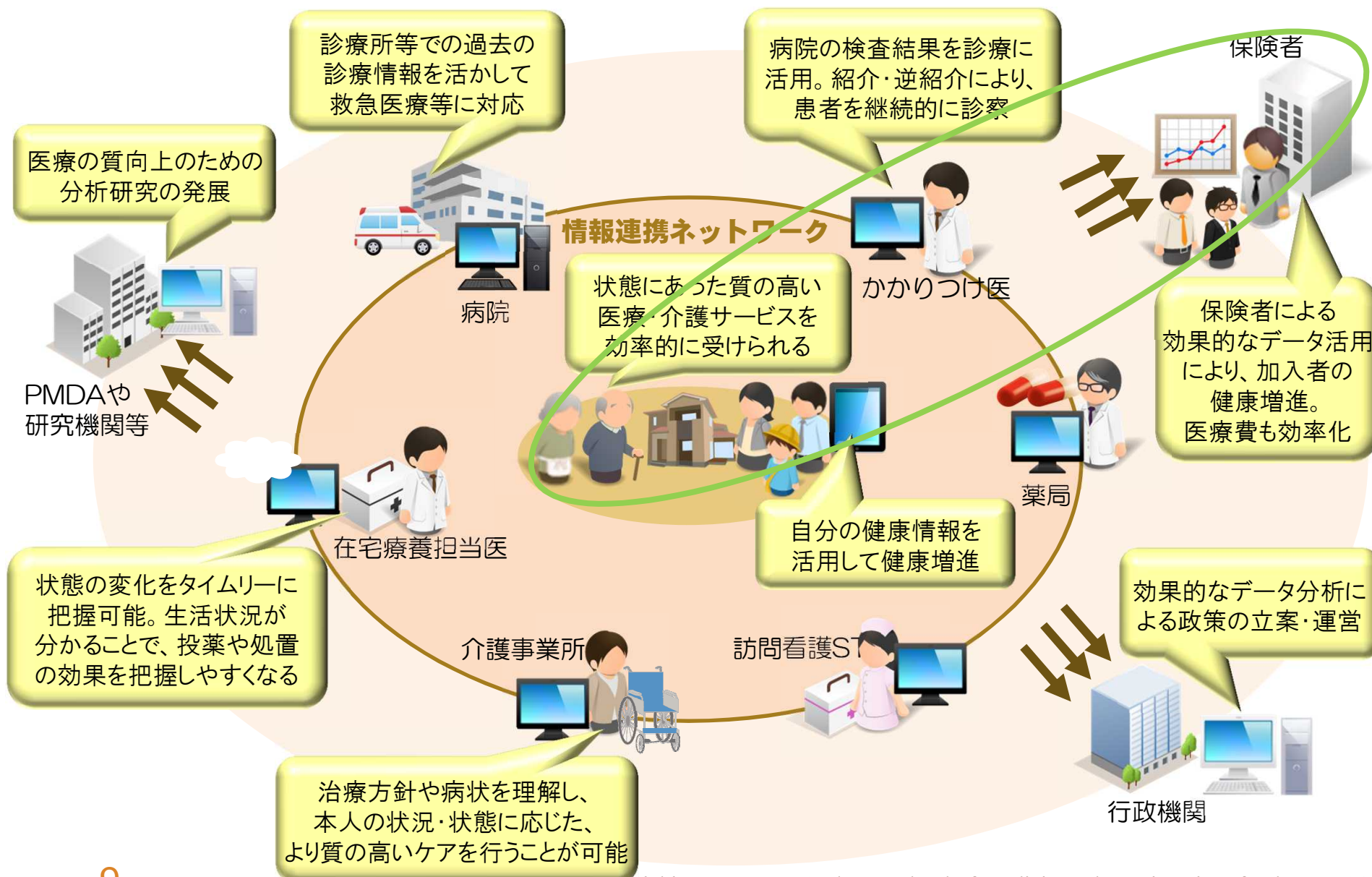
医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用





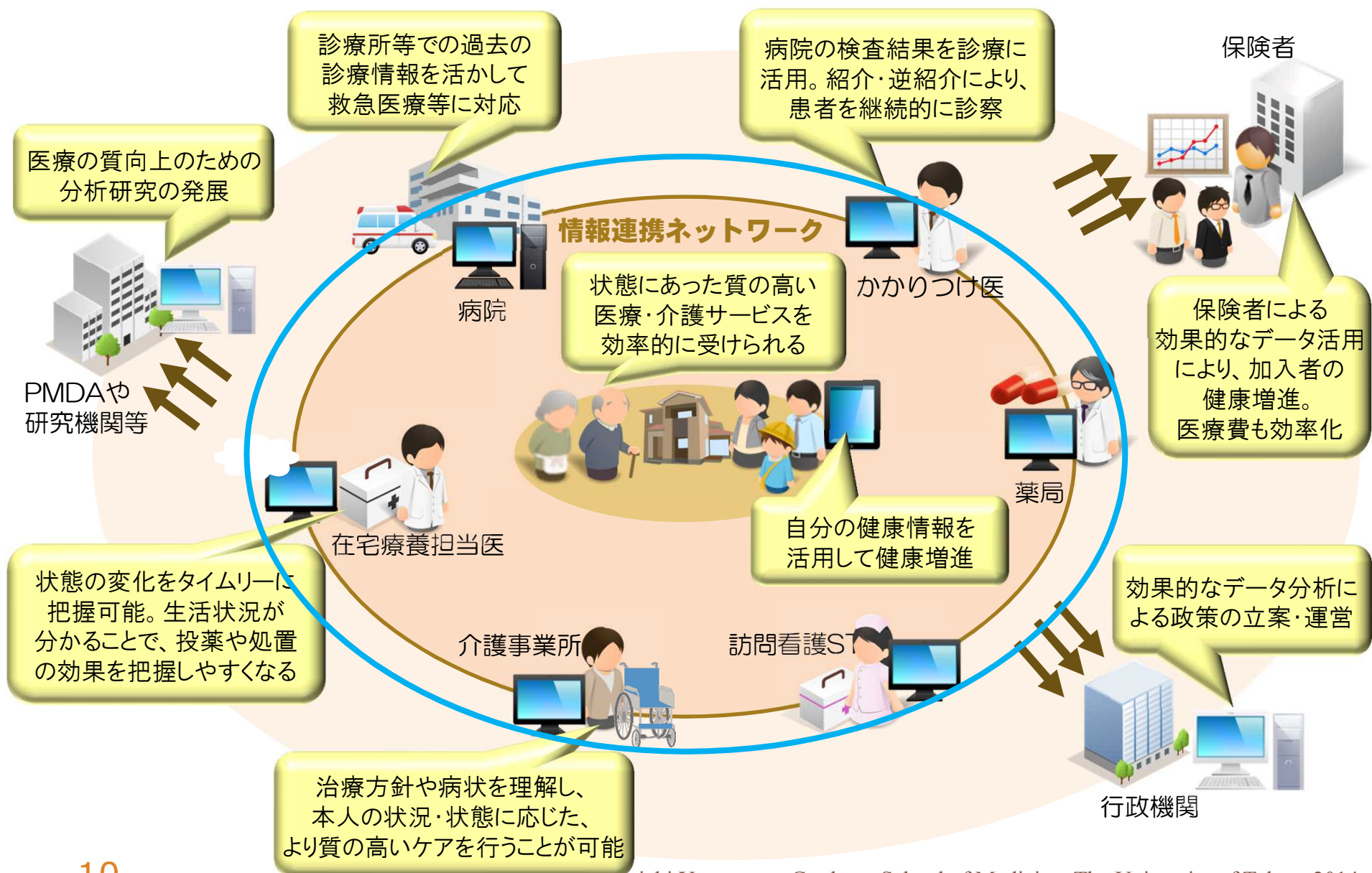
# 医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

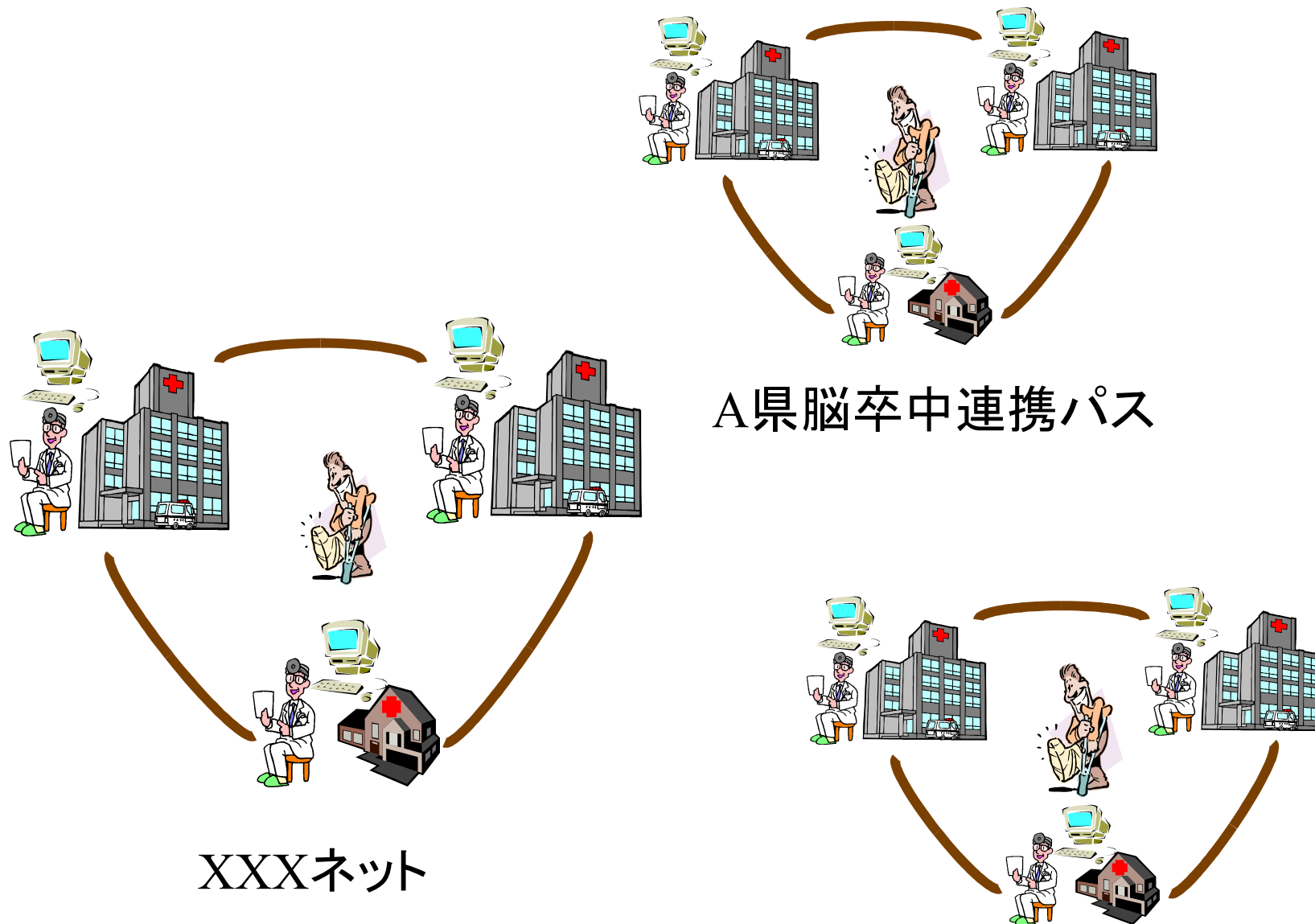
医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用

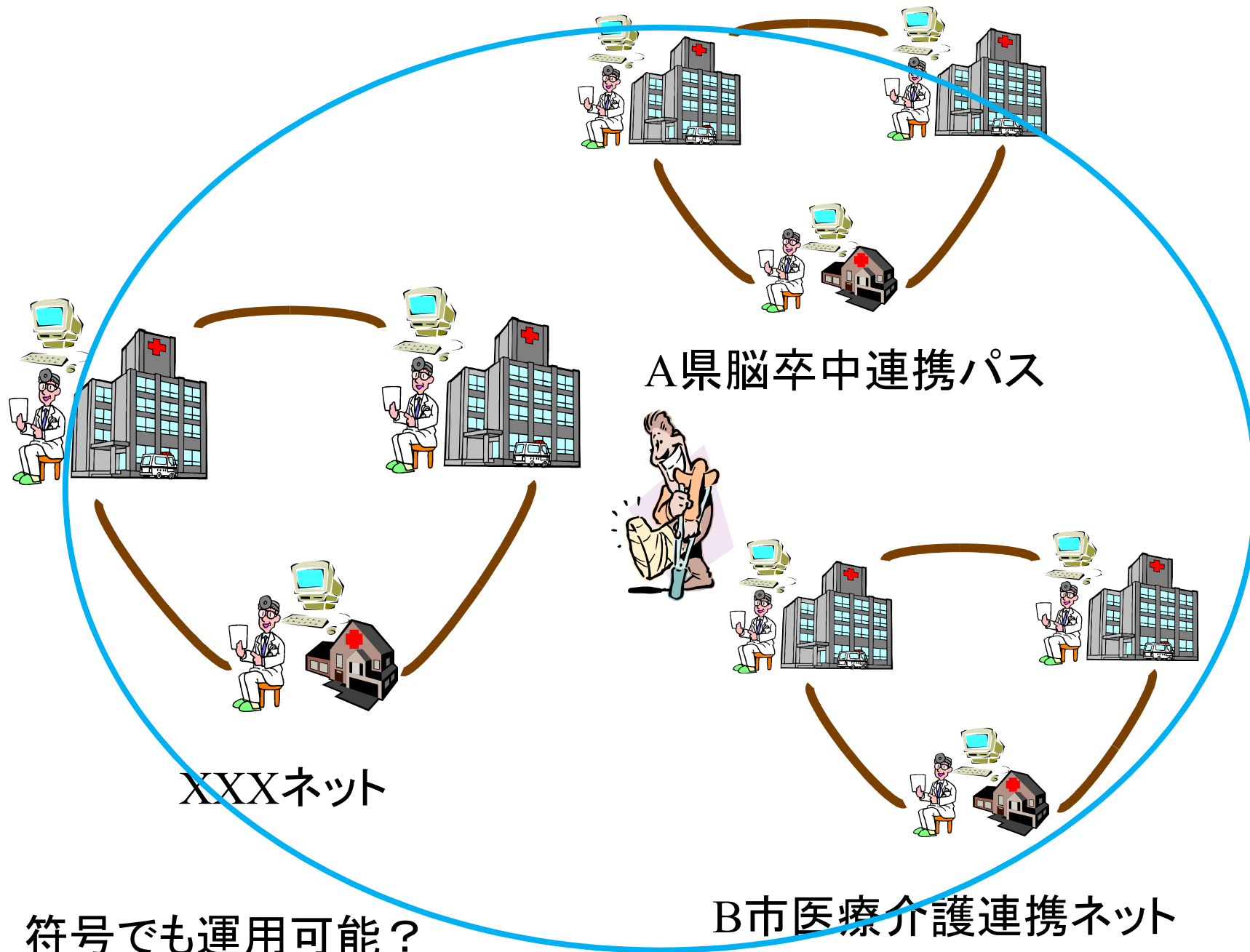


# 医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用

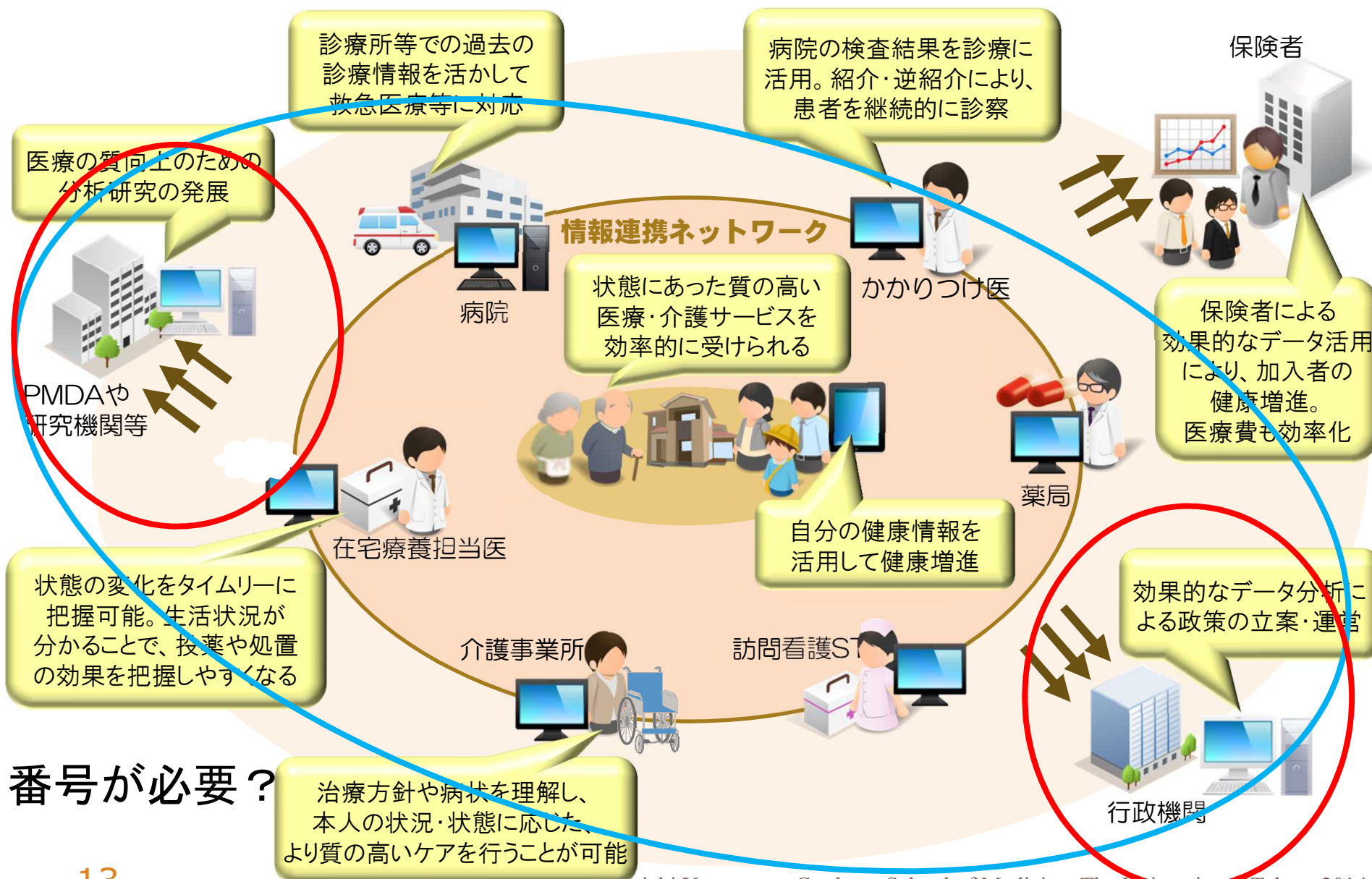




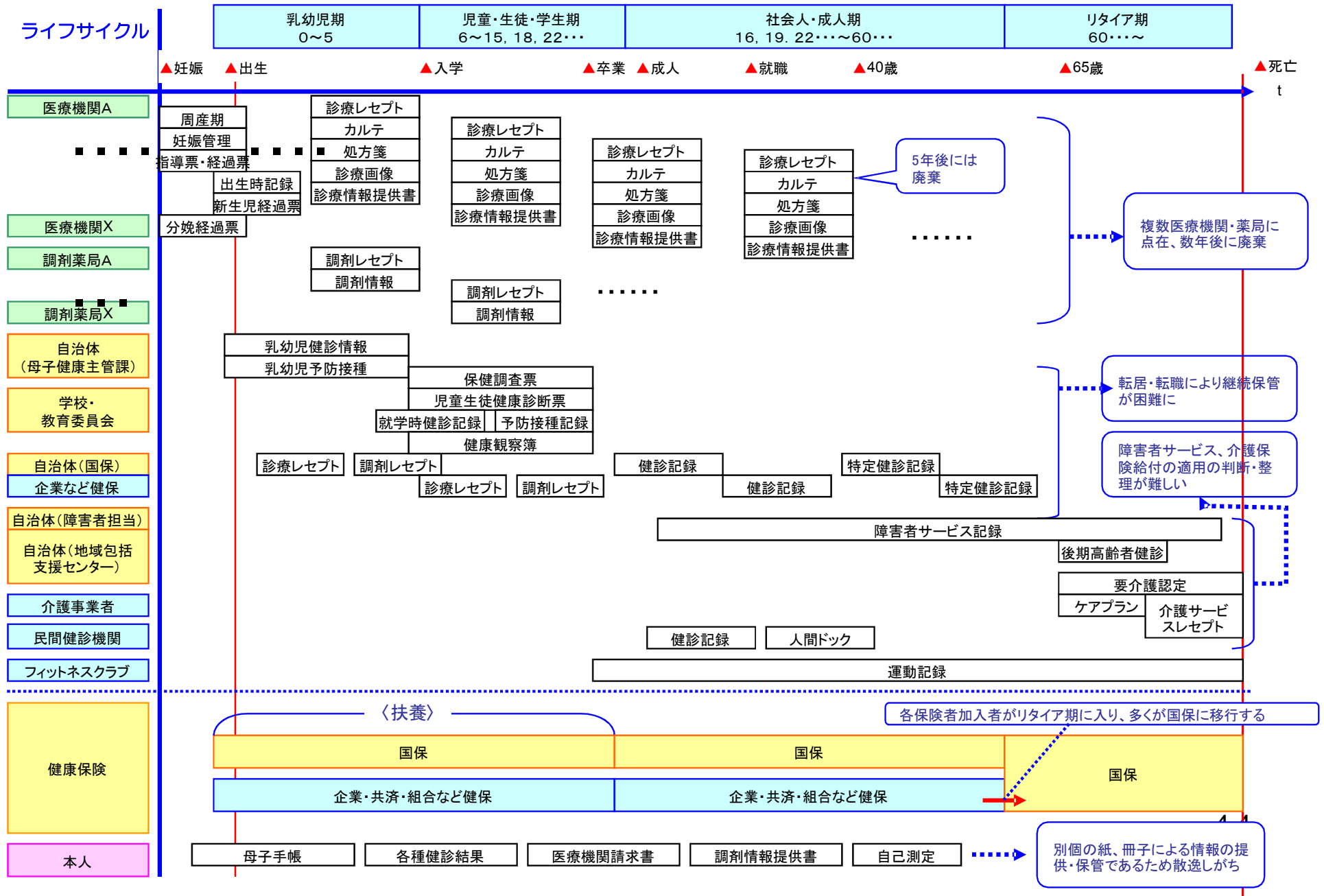


# 医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用



ライフサイクル



# 医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用



## まとめ

- ＞ 単独のステークホルダの運用には共通IDは必要ない。
- ＞ 多施設連携には共通IDは必須。ただし電子化が十分進めば目に見える番号である必要はない。
- ＞ 研究・分析は短期間であれば共通IDは必ずしも必要ないが、がんや生活習慣病、遅発性の副作用などを対象とする場合、共通IDは必要。分析の段階で本人の関与が望めない目に見える番号が必要。
- ＞ 本人のコントロール権を保証するためには共通IDが必要。電子化が十分進めば目に見える番号である必要はない。